

2023年度

環境経営レポート

活動期間 2023年4月1日～2024年3月31日

株式会社タイヤリサイクル北海道

目 次

1. 組織の概要	1
■事業所名・所在地等	
■管理責任者名・担当者連絡先	
■事業活動の主な内容	
■事業の規模	
■廃棄物処理業許可、古物商許可関係	
■施設の概要	
2. 対象範囲・レポートの対象期間及び発行日	4
3. 環境経営方針	5
■基本理念	
■行動方針	
4. 環境経営目標	6
5. 環境経営活動計画	9
6-1. 環境経営目標の実績及び原単位	10
7. 環境経営活動計画の取組結果とその評価	11
2022年度の取組内容	
8. 環境関連法規等の遵守状況の確認、評価の結果	
違反・訴訟等の有無	14
9. 代表者による全体評価と見直しの結果	14

1. 組織の概要

■事業所名・所在地等

事業所名 株式会社タイヤリサイクル北海道
所在地 〒007-0890
北海道札幌市東区中沼町45-55(札幌市リサイクル団地内)
設立年月日 1998年(平成10年)2月16日
資本金 4,000万円
売上高

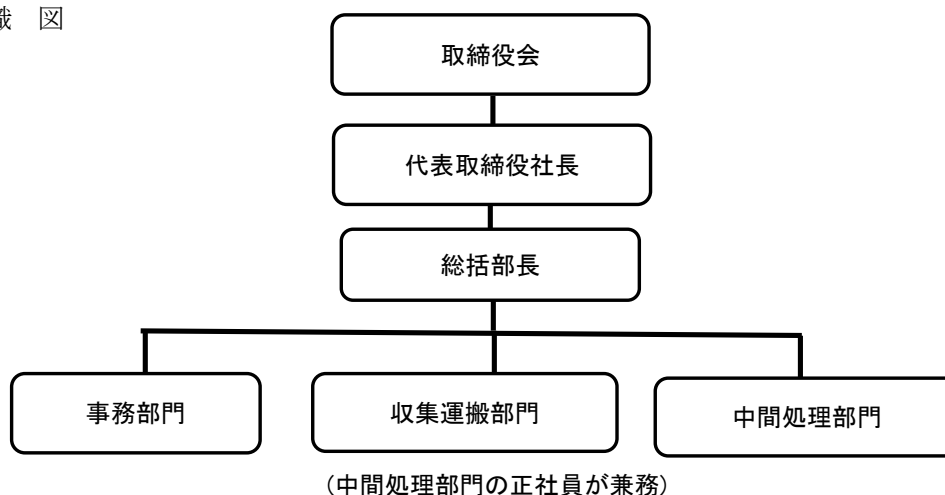
年度	2021年度	2022年度	2023年度	単位
金額	76	85	79	百万円

代表者名 代表取締役社長 葛西 祐康
2020年(令和2年)7月1日就任

沿革

1998年	・会社設立(タイヤ販売会社7社、収集・運搬会社7社が出資) ・産業廃棄物中間処理施設(破碎)設置許可取得 ・タイヤ切断工場・設備完成 ・産業廃棄物中間処理業許可取得
2005年	・タイヤ切断設備の更新 ・産業廃棄物収集運搬業許可取得(積替保管無し、北海道全域)
2013年	・トラック・バス用タイヤからタイヤチップを製造するため、タイヤビード抜き機を設置。
2015年	・エコアクション21認証登録
2017年	・同更新
2018年	・産業廃棄物処理業者 優良認定取得
2019年	・エコアクション21認証登録
2020年	・産業廃棄物処理業者 優良認定取得
2021年	・エコアクション21認証登録 ・タイヤビード引抜機増設
2022年	・トラック・バス用タイヤビード引抜機の増設
2022年	・廃タイヤシュレッダー(細破碎機)の導入

組織図



■環境経営管理責任者・事務局連絡先

責任者 代表取締役 葛西 祐康
事務局 総括部長 山崎 祐司
連絡先 北海道札幌市東区中沼町45-55(札幌市リサイクル団地内)
Tel. 011-791-5349 Fax . 011-791-5342
E-mail bz583470@bz04.plala.or.jp

■事業活動の主な内容

- 1) 廃タイヤ等の収集・運搬、処分業
- 2) 廃タイヤ等の中間処理後、再資源化した化石燃料代替及びゴム粉原料等チップの販売
- 3) 廃タイヤ等の中間処理後、再資源化した金属くずの販売

■事業の規模

区 分 年 度	2021年度	2022年度	2023年度	単位
廃タイヤ等収集運搬量	265	263	226	t
廃タイヤカット品等仕入	0	0	820	t
廃タイヤ等受入量	4,451	4,360	3,529	t
廃タイヤ等搬入量計	4,716	4,623	4,575	t
*廃タイヤ等中間処理量(2次加工含)	4,180	5,146	6,293	t
*中間処理後再資源化販売量(チップ)	3,659	4,899	4,941	t
*中間処理後再資源化販売量(その他)	116	261	359	t
*中間処理後再資源化物販売量	3,775	5,160	5,300	t
*廃タイヤ等未処理品	732	889	300	t
*製品在庫	830	100	60	t
従業員数	7	7	7	人
土地面積	9,900(札幌市より借用)			m ²
工場建物	604			m ²
チップヤード	315			m ²
事務所	63			m ²

*中間処理後、タイヤチップ、金属くず(ホイール、ビードワイヤー)は全量が再資源化物として販売され、産業廃棄物は、発生しない。

■廃棄物処理業許可関係

1) 産業廃棄物収集運搬業(北海道)

(1) 事業計画の概要

北海道内の事業者が排出する産業廃棄物(廃タイヤ、ベルト等)を収集し、自社事業所へ適正に運搬する。

(2) 許可の概要

- ・ 許可番号 第00100054796号
- ・ 取得年月日 令和2年(2020年)6月3日 ※優良認定取得
- ・ 許可期限 令和9年(2027年)5月30日
- ・ 事業の範囲 廃プラスチック類、金属くず。積み替え保管なし。

2) 産業廃棄物処分業(札幌市)

(1) 事業計画の概要

- ・ 自社収集又は収集運搬業者が収集した産業廃棄物(廃タイヤ、ベルト等)を引き取り、当該施設のタイヤ切断機でタイヤチップにする。
- ・ 製造したタイヤチップは、有価で製紙工場等利用先に納入する。
- ・ 選別により排出されたホイール、ビードワイヤー等の金属くずは、売却する。

(2) 許可の概要

- ・ 許可番号 第05120054796号
- ・ 取得年月日 平成30年(2018年)7月24日 ※優良認定取得
- ・ 許可期限 令和 7年(2025年)7月23日
- ・ 事業の範囲 ①破砕(廃タイヤの破砕に限る。) ア. 廃プラスチック類
②選別(ホイール及びビードワイヤーの抜き取りに限る。) イ. 金属くず
ア. 廃プラスチック類
③切断(ゴムホース、コンベアベルトに限る。) ア. 廃プラスチック類

3) 産業廃棄物処理施設設置変更許可(札幌市)

- ・ 許可番号 札事産施許可第22—01号
- ・ 取得年月日 令和4年(2022年)9月7日
- ・ 施設の種類 廃プラスチック類の破砕施設(施行令第7条第7号)
- ・ 廃棄物の種類 廃プラスチック類(廃タイヤ)
- ・ 処理能力 87.44t/日(8時間稼働)

*1. 一般廃棄物収集運搬業は、法第7条第1項但し書/施行規則第2条第8項により許可不要

*2. 一般廃棄物処分業は、法第7条第6項但し書/施行規則第2条第3第6号により許可不要。

また、一般廃棄物処理施設設置は、法第15条の2の5一般廃棄物処理施設設置者の特例により届出(平成17年(2005年)4月28日一般廃棄物処理施設設置届出受理書)

■古物商許可関係(北海道公安委員会)

- 許可番号 第101040000303号
- 許可年月日 平成10年(1998年)9月25日

■施設の概要

1) 運搬車両

名 称	保有台数
2トンアルミバン (ディーゼル車)	1

*平成27年基準適合低燃費車達成車

2) その他重機等

名 称	保有台数	免許取得者
ショベルローダー	1台	2名
バックホー	1	2名
フォークリフト	2	3名
スキャパー	1	3名

3) 廃プラスチック(廃タイヤ)中間処理施設・・・切断機、背割り機、ビード抜き機等(許可内容)

	機械設備	台数	処理能力t/日
破碎	トラックバス用タイヤ自動背割り機	1	トータル87.44t/日 (※56t/日 増加)
	トラックバス用タイヤ16分割切断機	1	
	小型トラック用タイヤ自動背割り機	1	
	乗用車用タイヤ16分割切断機	1	
	乗用車用タイヤ自動背割り機	1	
	※1乗用車用細破碎機(2インチ)	1	
切断	大型・ノーパンクタイヤ切断機	1	0.32t/日
選別	ホイール抜き機	2	10.0t/日
	※2ビードワイヤー抜き取り機	2	26.8t/日

※CM社製 2軸式細破碎機(2インチ) 7t/1h×8時間

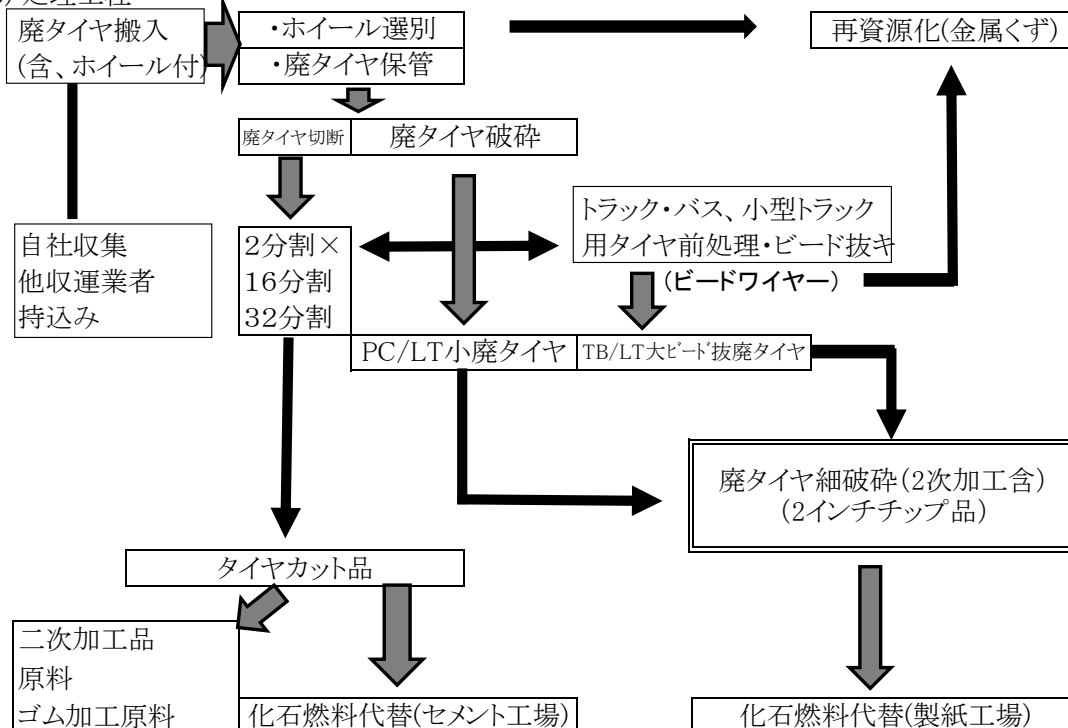
※2ビードワイヤーとは、タイヤとホイールの嵌合部分のスチールワイヤーの束を指す。

4) 台貫(トラックスケール) 1台

5) 保管施設

廃棄物の種類	最大保管量(t又はm ² 、m ³)	最大保管高さ	季節による制限
廃プラスチック類(廃タイヤ)	2,170m ³	2.5m	4～10月
	3,000m ³		11月～翌年3月
〃 (チップ)	135m ² (202t)	3m	なし
〃 (チップ)	180m ² (270t)	3m	なし

6) 処理工程



■ 2021～2023年度処理実績 及び リサイクル(リカバリー)率

			2021年度	2022年度	2023年度
廃タイヤ等 未処理品（期首在庫）			288	732	889
製品在庫（期首在庫）			335	830	100
在庫量 計			623	1,562	989
廃タイヤ等収集量			265	263	226
廃タイヤカット品等仕入			0	0	820
廃タイヤ等受入量			4,451	4,360	3,529
廃タイヤ等搬入量計			4,716	4,623	4,575
中間処理	廃タイヤ(廃プラスチック・2次加工含)		4,156	5,027	6,153
	金属くず(ホイール、ビードワイヤー)		24	119	140
	計		4,180	5,146	6,293
中間処理及び再資源化等量	廃タイヤ(切断)	製紙工場等燃料用	2,201	3,089	4,980
		ゴム加工品原料用	1,550	1,811	4
		計	3,751	4,899	4,984
	金属くず(ホイール、ビードワイヤー)		24	119	140
	計		3,775	5,018	5,124
	廃タイヤ等 未処理品（期末在庫）			732	889
製品在庫（期末在庫）			830	100	60
在庫量 計			1,562	989	360
リサイクル率 (JATMA 目標 94%)	発生量(搬入量+期首在庫)		5,004	5,355	5,464
	中間処理及び再資源化量(期中)		3,775	5,018	5,124
	年間処理率		75.4%	93.7%	93.8%
	サーマルリカバリー量		3,659	4,757	4,765
	マテリアルリサイクル量		116	261	359
	リサイクル量(中間処理+再資源化量)計		3,775	5,018	5,124
	産業廃棄物排出量(廃プラ・汚泥)		3.2	0.4	5.0
	サーマルリカバリー率		96.8%	94.8%	92.9%
	マテリアルリサイクル率		3.1%	5.2%	7.0%
	リサイクル(リカバリー)率(%)		99.9%	100.0%	99.9%
	在庫率(%) 年度繰越		31.2%	18.5%	6.6%

*リサイクル率＝発生量(搬入量+期首在庫)÷中間処理+再資源化量(除く期末在庫)を示します。

マテリアルリサイクルはホイール・金属くず・中古タイヤが入っています。リサイクル率は100%です。

未処理品在庫+製品在庫(期末分)を年度繰越としリサイクル率に反映しています。

*ビードワイヤーとは、タイヤとホイールの嵌合部分スチールワイヤーの束を指す。

*産業廃棄物には、廃タイヤ内の土・泥、及びホイールキャップ等が含まれています。

2. 対象範囲、レポートの対象期間及び発行日

■対象範囲 全組織、全活動

■対象期間 2023年(令和5年)4月～2024年(令和6年)3月

■発 行 日 2024年(令和6年)6月20日

3. 環境経営方針

■基本理念

当社は、タイヤ業界主導により運営されている中間処理工場で廃タイヤチップを製造し、化石燃料使用の製紙・セメント工場及び加工原料用としてゴム粉製造工場に供給しています。この事業活動は、循環型資源活用社会形成の推進、化石燃料代替による排出ガスの低減等に資していますが、更に継続して事業活動に伴う環境負荷の低減を図り、また、受託したものの全てのリユース・リサイクルを図り、環境保全に努め、関係法令遵守の下、企業の社会的責任を果たしてまいります。

■行動指針

1. 具体的な取組

以下について環境目標・活動計画を策定、実行し、また、実施結果について定期的に評価・見直しを行い、継続的に改善策を策定・実施します。

- イ. タイヤチップ製造の効率化等電力の消費に伴う二酸化炭素排出量の削減
- ロ. 収集運搬車、重機の燃料消費に伴う二酸化炭素の削減
- ハ. 一般ごみの分別・削減
- ニ. 節水教育による水資源の節約
- ホ. 事務用品等のグリーン購入・コピー用紙等の節約
- ヘ. 生物多様性への配慮

2. 法令遵守

廃棄物処理法をはじめとして事業活動に関連する環境関連法律・施行令・施行規則、道及び市条例を遵守します。

3. 周知・公表

全従業員に終礼、研修、掲示等により当社環境方針を周知徹底し、理解させます。また、環境方針、環境レポートは、公表します。

制定日	2015年 4月 1日
改定日	2017年10月10日
改定日	2021年 9月 1日

株式会社タイヤリサイクル北海道
代表取締役社長

葛西 祐康

4. 環境経営目標(環境負荷削減目標)

■中長期目標(2020年基準年)

2024年6月15日作成

項 目			2020年度 (基準年度)		2023年度目標・実績				2020年度 (基準年度)		2023年度目標・実績			
			実数値	単位	目標		実績	削減%	平均値 対比原 単位実 数値	単位	目標		平均値対比原単位	
					状況	削減%					状況	削減%	実績	削減%
温室効果 ガス排出 量	*電力		30,336	Kg-CO ₂	30,336	0%	68,066	124%	7.63	Kg-CO ₂ /t	7.63	0%	13.64	79%
	化石燃料		20,209	Kg-CO ₂	20,209	0%	27,079	34%	5.08	Kg-CO ₂ /t	5.08	0%	5.43	7%
	排出量計		50,545	Kg-CO ₂	50,545	0%	95,145	88%	12.71	Kg-CO ₂ /t	12.71	0%	19.07	50%
エネ ル ギ ー 投 入 量 (使用実 数)	購入電力(除、新エネルギー)		63,866	Kwh	63,866	0%	123,757	94%	16.06	Kwh/t	16.06	0%	24.80	54%
	化 石 燃 料 使 用 量	灯油	1,111	L	1,111	0%	978	-12%	0.28	L/t	0.28	0%	0.20	-29%
		*液化石油ガス(LPG)	27.8	Kg	27.8	0%	26.9	-3%	0.007	Kg/t	0.007	0%	0.005	-29%
		ガソリン	247	L	247	0%	243	-2%	0.06	L/t	0.06	0%	0.05	-17%
		軽油	6,395	L	6,395	0%	9,303	45%	1.61	L/t	1.61	0%	1.86	16%
*廃棄物 排出量及 び廃棄物 最終処分 量	一 般 廃 棄 物	一般ごみ	398	Kg	386	-3%	524	32%	0.10	Kg/t	0.10	0%	0.10	0%
		資源ごみ	3	Kg	3	0%	65	2067%	0.00	Kg/t	0.00	0%	0.01	-700%
		排出量計	401	Kg	389	-3%	589	47%	0.10	Kg/t	0.10	0%	0.11	10%
	産業廃棄物		0.3	t	0.3	0%	5.2	1627%	0.00	t/t	0.00	-	0.00	-
コピー用 紙使用量	使用量の削減		33.5	Kg	33.5	0%	27.2	-19%	0.0084	Kg/t	0.0084	0%	0.0055	-35%
*水使用 量(=下水 道排水量)	上水、下水道		326	m ³	510	56%	310	-5%	0.08	m ³ /t	0.08	0%	0.10	25%
*中間処 理量及び 再資源化 等量	事業計画を策定(2次加工 含)		3,967	t	4,086	3%	6,293	59%						

※電力・軽油については、新破砕機導入(2022年12月稼働)により使用量が大幅に増加している。

*電力によるCO₂の算出には、北海道電力(2022/8、0.55kg-Co2/kwh)の実排出係数を使用している。(2022/8ミツウロコ0.475Kg-CO₂/Kwh)

*電力によるCO₂排出量の最終目標値を±0%とする。(新破砕機導入要素:不確定)

*液化石油ガス(LPG)の使用量は、気体から重量への換算値。1m³=2.07Kg。

*水使用量について、新破砕機導入(稼働時常時散水のため)不確定要素大きく目標値を定めない

*中間処理後、タイヤチップ、金属くず(ホイール、ビードワイヤー)は再資源化物として、全量が販売され、産業廃棄物は、発生しない。

従って、中間処理量と中間処理後再資源化等量は、同量となる。

*グリーン購入(事務機器、文房具、作業着などエコ製品で調達している。

*化学物質、循環資源サイト内での循環物質の取り扱い、使用なし。

4. 環境経営目標(環境負荷削減目標)

■中長期目標(2020年基準年)

2024年6月15日作成

項 目			2020年度 (基準年 度)		中期・環境経営目標					
			実数値	単位	2021年		2022年		2023年	
					目標	削減%	目標	削減%	目標	削減%
温室効果 ガス排出 量	*電力		30,337	Kg-CO ₂	30,033	-1%	29,729	-2%	30,337	0%
	化石燃料		20,208	Kg-CO ₂	20,027	-1%	19,846	-2%	20,208	0%
	排出量計		50,545	Kg-CO ₂	50,060	-1%	49,575	-2%	50,545	0%
エネ ルギ ー投 入 量(使用実 数)	購入電力(除、新エネルギー)		63,866	Kwh	63,228	-1%	62,589	-2%	63,866	0%
	化 石 燃 料 使 用 量	灯油	1,111	L	1,105	-1%	1,100	-1%	1,111	0%
		*液化石油ガス(LPG)	27.8	Kg	28	0%	28	0%	28	0%
		ガソリン	247	L	247	0%	247	0%	247	0%
		軽油	6,395	L	6,331	-1%	6,267	-2%	6,395	0%
*廃棄物 排出量及 び廃棄物 最終処分 量	一 般 廃 棄 物	一般ごみ	396	Kg	394	-1%	390	-2%	386	-3%
		資源ごみ	3	Kg	3	0%	3	0%	3	0%
		排出量計	399	Kg	397	-1%	393	-2%	389	-3%
	産業廃棄物		0.3	t	0.3	0%	0.3	0%	0.3	0%
コピー用 紙使用量	使用量の削減		33.5	Kg	33.5	0%	33.5	0%	33.5	0%
*水使用 量(=下水 道排水量)	上水、下水道		326	m ³	326	0%	326	0%	326	0%
*中間処 理量及び 再資源化 等量	事業計画を策定(2次加工 含)		3,966	t	4,006	1%	4,045	2%	4,085	3%

※電力・軽油については、新破砕機導入(2022年12月稼働)により使用量が大幅に増加している。

*電力によるCO₂の算出には、北海道電力(2022/8、0.55kg-CO₂/kwh)の実排出係数を使用している。(2022/8ミツウロコ0.475Kg-CO₂/Kwh)

*電力によるCO₂排出量の最終目標値を±0%とする。(新破砕機導入要素:不確定)

*液化石油ガス(LPG)の使用量は、気体から重量への換算値。1m³=2.07Kg。

*水使用量について、新破砕機導入(稼働時常時散水のため)不確定要素大きく目標値を定めない

*中間処理後、タイヤチップ、金属くず(ホイール、ビードワイヤー)は再資源化物として、全量が販売され、産業廃棄物は、発生しない。

従って、中間処理量と中間処理後再資源化等量は、同量となる。

*グリーン購入(事務機器、文房具、作業着などエコ製品で調達している。

*化学物質、循環資源サイト内での循環物質の取り扱い、使用なし。

4. 環境経営目標(環境負荷削減目標)

■中長期目標(2023年基準年)

2024年6月15日作成

項 目			2023年度(基準年度)		中期・環境経営目標					
			実数値	単位	2024年		2025年		2026年	
					目標	削減%	目標	削減%	目標	削減%
温室効果 ガス排出 量	*電力		68,066	Kg-CO ₂	67,385	-1%	66,710	-2%	66,045	-3%
	化石燃料		27,079	Kg-CO ₂	26,810	-1%	26,540	-2%	26,275	-3%
	排出量計		95,145	Kg-CO ₂	94,195	-1%	93,250	-2%	92,320	-3%
エネ ルギ ー 投 入 量 (使 用 実 数)	購入電力(除、新エネルギー)		123,757	Kwh	122,520	-1%	121,300	-2%	120,090	-3%
	化 石 燃 料 使 用 量	灯油	978	L	970	-1%	960	-2%	950	-3%
		*液化石油ガス(LPG)	26.9	Kg	26.9	0%	26.9	0%	26.9	0%
		ガソリン	243	L	240	-1%	240	-1%	240	-1%
		軽油	9,303	L	9,210	-1%	9,120	-2%	9,030	-3%
* 廃棄物 排出量及 び廃棄物 最終処分 量	一 般 廃 棄 物	一般ごみ	524	Kg	520	-1%	515	-2%	510	-3%
		資源ごみ	65	Kg	65	-1%	64	-2%	63	-3%
		排出量計	589	Kg	585	-1%	579	-2%	573	-3%
	産業廃棄物		5.0	t	5.0	-1%	4.9	-2%	4.9	-3%
コピー用 紙使用量	使用量の削減		27.2	Kg	27.0	-1%	26.7	-2%	26.5	-3%
* 水使用 量(=下水 道排水量)	上水、下水道		510	m ³	505	-1%	500	-2%	495	-3%
* 中間処 理量及び 再資源化 等量	事業計画を策定(2次加工 含)		6,293	t	6,300	0%	6,300	0%	6,300	0%

- * 電力によるCO₂の算出には、北海道電力(2022/8、0.55kg-CO₂/kwh)の実排出係数を使用している。
- * 電力によるCO₂排出量の目標値を年次△1%とする。
- * 液化石油ガス(LPG)の使用量は、気体から重量への換算値。1m³=2.07Kg。
- * 水使用量は、隔月(奇数月)計算、5月に前年1年分の調整量発生(マイナス)下水道排水量＝水使用量
- * 中間処理後、タイヤチップ、金属くず(ホイール、ビードワイヤー)は再資源化物として、全量が販売され、産業廃棄物は、発生しない。
従って、中間処理量と中間処理後再資源化等量は、同量となる。
- * グリーン購入(事務機器、文房具、作業着などエコ製品で調達している。
- * 化学物質、循環資源サイト内での循環物質の取り扱い、使用なし。

4. 環境経営目標(環境負荷削減目標/平均値対比原単位)

■中長期目標(2020年基準年)

2024年6月15日作成

項 目			2020年度 (基準年度)		中期・平均値対比原単位目標					
			平均値対比 原単位実数 値	単位	2021年		2022年		2023年	
					目標	削減%	目標	削減%	目標	削減%
温室効果 ガス排出 量	＊電力		7.63	Kg-CO ₂ /t	7.55	-1%	7.48	-2%	7.63	0%
	化石燃料		5.08	Kg-CO ₂ /t	5.03	-1%	4.98	-2%	5.08	0%
	排出量計		12.71	Kg-CO ₂ /t	12.58	-1%	12.46	-2%	12.71	0%
エネ ルギ ー 投 入 量 (使用実 数)	購入電力(除、新エネルギー)		16.06	Kwh/t	15.90	-1%	15.74	-2%	16.06	0%
	化 石 燃 料 使 用 量	灯油	0.28	L/t	0.28	-1%	0.27	-2%	0.28	0%
		＊液化石油ガス(LPG)	0.007	Kg/t	0.007	0%	0.007	0%	0.007	0%
		ガソリン	0.06	L/t	0.06	0%	0.06	0%	0.06	0%
		軽油	1.61	L/t	1.59	-1%	1.58	-2%	1.61	0%
＊廃棄物 排出量及 び廃棄物 最終処分 量	一 般 廃 棄 物	一般ごみ	0.10	Kg/t	0.10	-1%	0.10	-2%	0.10	-3%
		資源ごみ	0.00	Kg/t	0.00	0%	0.00	0%	0.00	0%
		排出量計	0.10	Kg/t	0.10	-1%	0.10	-2%	0.10	-3%
	産業廃棄物		0.00	t/t	0.00	0%	0.00	0%	0.00	0%
コピー用 紙使用量	使用量の削減		0.0084	Kg/t	0.0084	0%	0.0084	0%	0.0084	0%
＊水使用 量(=下水 道排水量)	上水、下水道		0.08	m ³ /t	0.08	0%	0.08	0%	0.08	0%
＊中間処 理量及び 再資源化 等量	事業計画を策定(2次加工 含)									

※電力・軽油については、新破碎機導入(2022年12月稼働)により使用量が大幅に増加している。

＊電力によるCO₂の算出には、北海道電力(2022/8、0.55kg-Co2/kwh)の実排出係数を使用している。(2022/8ミツウロコ0.475Kg-CO₂/Kwh)

＊電力によるCO₂排出量の最終目標値を±0%とする。(新破碎機導入要素:不確定)

＊液化石油ガス(LPG)の使用量は、気体から重量への換算値。1m³=2.07Kg。

＊水使用量について、新破碎機導入(稼働時常時散水のため)不確定要素大きく目標値を定めない

＊中間処理後、タイヤチップ、金属くず(ホイール、ビードワイヤー)は再資源化物として、全量が販売され、産業廃棄物は、発生しない。

従って、中間処理量と中間処理後再資源化等量は、同量となる。

＊グリーン購入(事務機器、文房具、作業着などエコ製品で調達している。

＊化学物質、循環資源サイト内での循環物質の取り扱い、使用なし。

4. 環境経営目標(環境負荷削減目標/平均値対比原単位)

■中長期目標(2020年基準年)

2024年6月15日作成

項 目			2023年度(基準年度)		中期・平均値対比原単位目標					
			平均値対比 原単位実数 値	単位	2024年		2025年		2026年	
					目標	削減%	目標	削減%	目標	削減%
温室効果 ガス排出 量	＊電力		13.64	Kg-CO ₂ /t	13.50	-1%	13.36	-2%	13.23	-3%
	化石燃料		5.43	Kg-CO ₂ /t	5.38	-1%	5.33	-2%	5.27	-3%
	排出量計		19.07	Kg-CO ₂ /t	18.88	-1%	18.69	-2%	18.50	-3%
エネ ルギ ー投 入 量(使用実 数)	購入電力(除、新エネルギー)		24.80	Kwh/t	24.55	-1%	24.31	-2%	24.07	-3%
	化 石 燃 料 使 用 量	灯油	0.20	L/t	0.20	-1%	0.20	-2%	0.19	-3%
		＊液化石油ガス(LPG)	0.005	Kg/t	0.005	0%	0.005	0%	0.005	0%
		ガソリン	0.05	L/t	0.05	-1%	0.05	-1%	0.05	-1%
		軽油	1.86	L/t	1.84	-1%	1.82	-2%	1.81	-3%
＊廃棄物 排出量及 び廃棄物 最終処分 量	一 般 廃 棄 物	一般ごみ	0.10	Kg/t	0.10	-1%	0.10	-2%	0.10	-3%
		資源ごみ	0.01	Kg/t	0.01	-1%	0.01	-2%	0.01	-3%
		排出量計	0.11	Kg/t	0.10	-9%	0.11	-2%	0.11	-3%
	産業廃棄物		0.00	t/t	0.00	-	0.00	-	0.00	-
コピー用 紙使用量	使用量の削減		0.0055	Kg/t	0.0055	-1%	0.0054	-2%	0.0054	-2%
＊水使用 量(=下水 道排水量)	上水、下水道		0.10	m ³ /t	0.10	-1%	0.10	-2%	0.10	-3%
＊中間処 理量及び 再資源化 等量	事業計画を策定(2次加工 含)									

- ＊電力によるCO₂の算出には、北海道電力(2022/8、0.55kg-Co2/kwh)の実排出係数を使用している。
- ＊電力によるCO₂排出量の目標値を年次△1%とする。
- ＊液化石油ガス(LPG)の使用量は、気体から重量への換算値。1m³=2.07Kg。
- ＊水使用量は、隔月(奇数月)計算、5月に前年1年分の調整量発生(マイナス)下水道排水量＝水使用量
- ＊中間処理後、タイヤチップ、金属くず(ホイール、ビードワイヤー)は再資源化物として、全量が販売され、産業廃棄物は、発生しない。
従って、中間処理量と中間処理後再資源化等量は、同量となる。
- ＊グリーン購入(事務機器、文房具、作業着などエコ製品で調達している。
- ＊化学物質、循環資源サイト内での循環物質の取り扱い、使用なし。

5. 環境経営活動計画

◆温室効果ガス排出量の削減

2023年6月15日作成

環境目標	取組内容	実施詳細
電力使用量	消費電力の削減	事務所、工場とも使用していない場所及び時間帯は消灯する。 事務機器及び、工場内設備等は、交換時期に省エネタイプに切り替える。(LED化)。
	電化製品の節電	事務機器、パソコン等の電源は使用しない機器及び時間帯は、切断する 空気清浄器、トイレ、応接室の換気扇は不要時電源を切る。⇒2021年コロナ対策(換気・空気入替強化継続中)
	工場の節電(9割が工場設備に係る消費)	CM細破砕機/TB切断機/ビード'抜取機、日々操業シフト・量を調整実施、過度な集中を避ける。 年間シフトの見直し(繁忙期－閑散期、夏季－冬季)、閑散期の作業を見据えた繁忙期の作業の在り方検討。 設備、細破砕機、ベルトコンベアの日常メンテナンス強化、清掃チップカスの除去、点検、部品交換等)…高品質グリス導入による省力化
灯油・ガス使用量	冷暖房の適切な使用	事務所は、エアコンの調節温度を適切に設定。 工場休憩所の灯油ストーブのエコ運転し適性温度で運用する。(昼休み、休憩時)
	工場設備(灯油の8割がジェットボイラーの使用による消費)	設備始動時のジェットボイラーの使用時間をできるだけ短縮する。⇒スポット暖房(電気)定時間運用併用 始動時シャッターを下ろし、外気を入れない等の対策及びその他適切な方法を模索。 秋季繁忙期のしわ寄せをできるだけ少なくして、冬季の作業量に反映させる。(作業ロスの未然防止)
ガソリン・軽油使用量	車両燃料利用の効率化(ガソリンは、社用車オンリー、軽油は、重機が8割を占める)	アイドリングストップ、急発進・急加速をしない等エコドライブの周知・徹底する。
		最短収集コース/排出者の排出状況等の把握と収集計画立案・実行。
		搬入、中間処理、出荷時、ストックヤード等廃タイヤ、チップの整理、除雪等作業の合理化、水制作業時間の短縮。
		秋季繁忙期中に冬季の作業効率、ストック条件等を事前に考慮し、冬季の水割による作業ロスを減らす。
		ショベル、バックホー、フォークリフトのエコドライブの励行。
		製品配送(計画出荷を励行し無駄を省く)・排雪用ゲンブ必要台数を計画し使用しエコ安全ドライブの徹底。
		省エネ車、省燃費タイヤの交換時期の購入促進(社用車は夏・冬購入済、収集車冬購入済⇒車両入替)。

◆廃棄物排出量の削減

環境目標	取組内容	実施詳細
一般廃棄物の排出量	資源の保全	可能な限り分別して、資源ゴミを確実に再資源化する。(札幌市指定通りの分別を励行)分別方法の掲出
		データ電子化、両面コピーの励行、ミスコピー量の削減対策、反古紙の利用によりごみを減量化する。
		持込ごみ(社員)の持ち帰りの推進
		資料等できるだけメール添付でやり取りをする。電子データの活用。
産業廃棄物の排出量	廃タイヤ洗浄汚泥の減量	泥付廃タイヤの構内持込禁止の徹底。事業所からの産廃排出は、汚泥、廃ブラ等少量。 (中間処理工程での産廃物の発生はゼロ。)

◆水道水使用量(下水道排水量)の削減

環境目標	取組内容	実施詳細
水使用量(下水道排水量)	節水意識の向上	節水を啓発する表示を行うことにより従業員の意識を高める。
		細破砕機(CM)常時散水が必須、破砕に最適な量を散水する様に徹底する
		作業着等洗濯時は全自動洗濯機により節水を心がける
		水使用時は、給水ハンドルを全開しない。
	泥付廃タイヤ、ゴムの切屑洗浄量の削減(消費の9割が洗浄用)	泥付廃タイヤの構内持ち込み禁止の徹底。ゴムの切屑の清掃と火花等の状況確認励行により、適切な水掛け量とする。
		エアー及びスウィーパー(車両)による清掃をできるだけ励行。

◆再資源化の拡大推進

環境目標	取組内容	実施詳細
中間処理及び再資源化等量の拡大	収集運搬、中間処理量の拡大	排出者への協力依頼及び積極的な自社収集により廃タイヤ搬入量増加を図る。
		作業の効率化を図るため、日常の保守点検、整備、修理、部品交換等により故障を少なくし、増産を図る。
		利用先への増量アプローチ、セメント・製紙以外の発電、ゴム粉加工等利用先拡大を図る。
	金属くずの選別・販売拡大	ビード引抜の拡大⇒細破砕碎働(TB/LT)必須、選別能力を上げできるだけ中古出荷の拡大を図る。

◆グリーン購入の推進、その他

環境目標	取組内容	実施詳細
グリーン購入の促進	エコマーク商品	グリーン購入法適合商品の中心(エコ商品指針)に購入する。
		事務用品、作業衣等順次エコマーク品の購入し継続して行く。
その他	情報提供・啓発活動	環境活動のHPでの公表…環境担当窓口(含、苦情)の役割業務、環境活動レポートの公表 産廃情報ネット(WMF)の活用…産廃物処理業許可情報、優良産廃認定関係の情報公表 消費者、排出者等に対する情報提供、啓発活動、外部からの意見聴取(窓口:環境事務局)、設備見学者への積極的対応。
	教育・訓練	指定可燃物である廃タイヤは、一旦燃焼すると消化は困難のため、火災予防教育・訓練は必須事項…年1回実施。
		5S運動(整理・整頓・清掃・清潔・しつけ)の実践。…ポスター、終礼、研修会等による啓発。 無災害記録"2000日"目標運動(6月20日現在517日)…2022年7月26日労災発生 定例講習会の開催…毎月開催。テーマは、前月までの環境活動報告と次月の対応、関係法律、安全衛生等一口講習会の開催。
	周辺の環境整備	定期的なゴム屑・ゴム粉の構内清掃の実施。(破砕機やベルトコンベア周辺等設備は、念入りにする。)
		終業時ゴム屑・ゴム粉の清掃、火花のチェック、水掛けの励行。 工場近辺のタイヤチップの落下物チェックを常時行う。荷積み時の落下防止の徹底。
	生物多様性への配慮	敷地及び周辺の雑草刈り(2回)、植栽、花壇・花畑の維持・メンテナンス、中沼町内会「環境美化事業」、モエレまちづくり委「花と緑のまちづくり」等環境関係事業等へリサイクル団地協議会を通じ協賛金を拠出。生物多様性さっぽろ応援宣言企業登録及びさっぽろ生き物さがし参加

6. 環境経営目標(環境負荷削減目標及び平均値原単位)の実績

●実施状況 ○:100%達成 △:目標に対して90%以上達成 ×:90%未満不達

■中長期目標(2020年基準年) 2024年6月15日作成

項 目				2020年度(基準年度)				2023年度目標・実績							
				実数値	単位	平均値 対比原 単位実 数値	単位	目 標 削減%	実 績		実 施 状 況	目 標 削減%	平均値対比原単位		実 施 状 況
										削減%			実 績	削減%	
温室効果 ガス排出 量	＊電力			30,336	Kg-CO ₂	7.63	Kg-CO ₂ /t	0%	67,697	123%	×	0%	13.57	78%	×
	化石燃料			20,209	Kg-CO ₂	5.08	Kg-CO ₂ /t	0%	27,494	36%	×	0%	5.51	8%	×
	排出量計			50,545	Kg-CO ₂	12.71	Kg-CO ₂ /t	0%	95,191	88%	×	0%	19.08	50%	×
エネル ギー投入 量(使用実 数)	購入電力(除、新エネルギー)			63,866	Kwh	16.06	Kwh/t	0%	123,757	94%	×	0%	24.67	54%	×
	化 石 燃 料 使 用 量	灯油		1,111	L	0.28	L/t	0%	978	-12%	○	0%	0.20	-29%	○
		＊液化石油ガス(LPG)		27.8	Kg	0.007	Kg/t	0%	26.9	-3%	○	0%	0.005	-29%	○
		ガソリン		247	L	0.06	L/t	0%	243	-2%	○	0%	0.05	-17%	○
		軽油		6,395	L	1.61	L/t	0%	9,303	45%	×	0%	1.86	16%	×
＊廃棄物 排出量及 び廃棄物 最終処分 量	一 般 廃 棄 物	一般ごみ	398	Kg	0.10	Kg/t	-3%	524	32%	×	-3%	0.10	0%	○	
		資源ごみ	3	Kg	0.00	Kg/t	0%	65	2067%	×	0%	0.01	∞	×	
		排出量計	401	Kg	0.10	Kg/t	-3%	589	47%	×	-3%	0.11	10%	△	
	産業廃棄物			0.3	t	0.00	t/t	0%	5.0	1567%	×	0%	0.00	-	-
コピー用 紙使用量	使用量の削減			33.5	Kg	0.0084	Kg/t	0%	27.2	-19%	○	0%	0.0055	-35%	○
＊水使用 量(=下水 道排水量)	上水、下水道			326	m ³	0.08	m ³ /t	0%	510	56%	×	0%	0.100	25%	×
＊中間処 理量及び 再資源化 等量	事業計画を策定(2次加工 含)			3,966	t			3%	6,293	59%	○				

＊電力によるCO₂の算出には、北海道電力の実排出係数を使用している。(0.55Kg-CO₂/Kwh)

＊液化石油ガス(LPG)の使用量は、気体から重量への換算値。1m³=2.07Kg。

＊水使用量は、隔月(奇数月)計算で、しかも5月に前年1年分の調整量をマイナスしている。下水道排水量は、水使用量と同じ。

＊中間処理後、タイヤチップ、金属くず(ホイール、ビードワイヤー)は再資源化物として、全量が販売され、産業廃棄物は、発生しない。
従って、中間処理量と中間処理後再資源化等量は、同量となる。

＊グリーン購入(事務機器、文房具、作業着などエコ製品で調達している。

＊化学物質、循環資源サイト内での循環物質の取り扱い、使用なし。

6. 環境経営計画の取組結果とその評価、2023年度の取組内容

■2023年度環境活動計画の取組結果

内容:○ 実行 △ 一部実行・検討 × 未実施

◆温室効果ガス排出量の削減

2024年5月31日作成

環境目標	取組内容	実施詳細	実施状況	内 容
電力使用量	消費電力の削減	事務所、工場とも使用していない場所及び時間帯は消灯する。	○	実施している、継続実施
		事務機器、工場内の照明は、交換時期に省エネタイプに切り替える。(LED化)	○	コッパ室順次交換推進
	電化製品の節電	事務機器、パソコン等の電源は、使用しない機器及び時間帯は切断する	○	実施している、継続実施
		空気清浄器、トイレ、事務所・応接室の換気扇は不要時電源を切る。(換気対策継続中)	○	感染症対策継続実施
	工場の節電(9割が工場設備に係る消費)	細破砕機/TB切断機/ベルト採取機、日々操業シフト・量を調整実施、過度な集中を避ける。 年間シフトの見直し(繁忙期・閑散期、夏季・冬季)、閑散期の作業を見据えた繁忙期の作業の在り方模索。 設備、細破砕機、ベルトコンベアの日常メンテナンス強化、清掃 チップカスの除去、点検、部品交換等)…高品質グリス導入による省力化	○	細破砕機は400V180Kwh 使用電力が多く、12月以降フルに近い為電機使用量を観察する⇒デマンドコントロール導入検討 高品質グリス使用しグリスUP頻度を伸ばし、清掃 点検等の頻度を上げる
灯油・ガス使用量	冷暖房の適切な使用	事務所は、エアコンの調節温度を適切に設定。 工場休憩所での灯油ストーブをエコ運転し、適性温度で運用する。(昼休み、休憩時)	○	実施している、継続実施
	(灯油の8割がジェットボイラーの使用による消費)	設備始動時のジェットボイラー使用時間の短縮⇒スポット暖房(電気)定時間運用併用 始動時シャッターを下し、外気を入れない等の対策及びその他適切な方法模索 秋季繁忙期のしわ寄せを少なくして、冬季の作業量に反映させる。(作業ロスの未然防止)	○	機械設備変更の為使用量増加、スポット暖房導入し凍結防止の併用する
		アイドリングストップ、急発進・急加速をしない等エコドライブの周知(収集車)	○	出荷量の平準化
ガソリン・軽油使用量	車両燃料利用の効率化(ガソリンは、社用車オンリー、軽油は、重機が7割を占める。)	最短収集コース/排出者の排出状況等の把握と収集計画立案・実行	△	顧客回収依頼発生
		搬入、中間処理、出荷時、ストックヤード等廃タイヤ、チップの整理、除雪等作業の合理化、氷制作業時間の短縮	△	一度に降る量多く除雪作業増、量は平年並み排雪作業無
		秋季繁忙期中に冬季の作業効率、ストック条件等を事前に考慮し、冬季の氷割による作業ロスをはできるだけ減らす。	△	バックフォー活用による氷制作業の効率・省力化
		ショベル、ユンボ、フォークリフトのエコドライブの励行。	○	従業員の負担・軽労化推進
		製品配送(計画出荷を励行し無駄を省く)排雪用ダンプ必要台数計画使用しエコ安全ドライブの徹底	○	ベルトワイヤーは事前予約性に移行
		省エネ車、省燃費タイヤの交換時期購入の促進(社用車、収集車)	○	社用車は冬タイヤ7台省エネタイプ交換、交換時に順次推進

◆廃棄物排出量の削減

環境目標	取組内容	実施詳細	実施状況	内 容
一般廃棄物の排出量	資源の保全	可能な限り分別して、資源ゴミを確実に再資源化する。(札幌市指定通りの分別を励行)	△	分別方法の掲出(壁・分別箱)
		データ電子化、両面コピーの励行、ミスコピー量の削減対策、反古紙の利用によりごみを減量化する。	○	実行している、継続実施
		持込ごみ(社員)の持ち帰りの推進	△	従業員浸透⇒更に徹底推進
		資料等でできるだけメール添付でやり取りをする。電子データの活用。	○	実行している
産業廃棄物の排出量	廃タイヤ洗浄汚泥の減量	泥付廃タイヤの構内持ち込み禁止の徹底。事業所からの産廃排出は、汚泥、廃プラ等少量。(中間処理工程での産業廃棄物の発生はゼロ)	○	実行している、継続実施

◆水道水使用量(下水道排水量)の削減

環境目標	取組内容	実施詳細	実施状況	内 容
水使用量(下水道排水量)	節水意識の向上	節水を啓発する表示を行うことにより従業員の意識を高める。	○	実施している、継続実施
		細破砕機(CM)常時散水、最適な量を散水する様に徹底する	○	水道設備付けし実施
		作業着等洗濯時は全自動洗濯機により節水を心がける	○	全自動洗濯機による節水
		水使用時は、給水ハンドルを全開しない。	○	実行している
	泥付廃タイヤ、ゴムの切屑洗浄量の削減	泥付廃タイヤの構内持ち込み禁止の徹底。ゴムの切屑の清掃励行と火花等の状況確認励行により水掛け量を減らす。	○	実行している 常に徹底、励行
		エアー及びスウィーパー(車両)による清掃をできるだけ励行。	○	スウィーパー使用頻度拡大

◆再資源化の拡大推進

環境目標	取組内容	実施詳細	実施状況	内 容
中間処理量及び再資源化等量の拡大	収集運搬、中間処理量の拡大	排出者への協力依頼及び積極的な自社収集により廃タイヤ搬入量増加を図る。	○	実行⇒発生量
		作業の効率化を図るため、日常点検、整備、修理、部品交換等により故障を少なくし、増産を図る。	○	部品交換の頻度アップ
		利用先への増量アプローチ、セメント・製紙以外の発電、ゴム粉加工等利用先拡大を図る。	○	受入量増量要請あり
		金属くずの選別・販売拡大	○	実行している、継続実施

◆グリーン購入の推進、その他

環境目標	取組内容	実施詳細	実施状況	内 容
グリーン購入の促進	エコマーク商品	グリーン購入法適合商品を中心に(エコ商品指針)購入する。 事務用品、作業衣等順次エコマーク品の購入し継続して行く。	○	基本⇒グリーン購入・エコ商品を調達する。
その他	情報提供・啓発活動	環境活動のHPでの公表…環境担当窓口(含、苦情)役割業務、環境活動レポートの公表	○	公表している。
		産廃情報ネット(WMF)の活用…廃棄物処理業許可、優良産廃認定関係の情報公表	○	公表している。
		消費者、排出者等に対する情報提供、啓発活動、外部からの意見聴取(窓口:環境事務局)、設備見学者への積極的対応。	○	実行している。
	教育・訓練	指定可燃物である廃タイヤは、一度燃焼すると消化は困難のため、火災予防教育・訓練は必須事項:年1回は実施。(防災教育含む)	○	2022年11月29日訓練実施
		5S運動(整理・整頓・清掃・清潔・しつけ)の実践	○	継続実施中
		無災害記録”2000日”目標運動、6月20日現在517日)…2022年労災発生	○	継続実施517日継続中
	周辺の環境整備	定例研修会の開催…毎月開催。テーマは、前月までの環境活動報告と次月の対応、関係法律、安全衛生等一口講習会の開催。	○	月次開催、年12回実施
		定期的なゴムくず・ゴム粉の清掃(特にベルトコンベア周辺等設備は、念入りにする。)	○	継続実施
生物多様性への配慮		終業時ゴムくず・ゴム粉の清掃、火花のチェック、水掛けの励行。	○	継続実施
		工場近辺のタイヤチップの落下物チェックを常時行う。荷積み時の落下防止の徹底。	○	継続実施・パトロール実施
生物多様性への配慮		敷地及び周辺の雑草刈り(2回)、植栽、花壇・花畑の維持・メンテナンス、中沼町内会「環境美化事業」、モエレまちづくり委「花と緑のまちづくり」等環境関係事業等へリサイクル団地協議会を通じ協賛金を拠出。	○	継続実施
		生物多様性さっぽろ応援宣言企業登録及びさっぽろ生き物さがし参加	○	

■環境経営計画の取組の評価

1. 温暖化ガス排出量

1) 総排出量

単位:Kg-CO₂、%

	2020年度 (基準年度)	2023年度		
		実績(数値)	目標(削減%)	実績(削減%)
電力	30,336	67,697	0%	123%
化石燃料	20,209	27,494	0%	36%
総排出量	50,545	95,191	0%	88%

※平均値対比原単位:廃タイヤ搬入量・中間処理量・タイヤチップ販売量の平均値で除算数値(分母)トン当たりのkg-CO₂排出量

	2020年度 (基準年度)	2021年度		
		実績(数値)	目標(削減%)	実績(削減%)
電力	7.63	13.57	0%	78%
化石燃料	5.08	5.51	0%	8%
総排出量	12.71	19.08	0%	50%

温暖化ガス排出量(CO₂排出)

2) エネルギー投入量

	2020年度 (基準年度)	2023年度		
		実績(数値)	目標(削減%)	実績(削減%)
電力(kwh)	63,866	123,757	0%	94%
灯油(L)	1,111	978	0%	-12%
LPG(kg)	28.0	26.9	0%	-4%
ガソリン(L)	247	243	0%	-2%
軽油(L)	6,395	9,303	0%	45%

※平均値対比原単位:廃タイヤ搬入量・中間処理量・タイヤチップ販売量の平均値で除算数値(分母)トン当たりのエネルギー消費量

	2020年度 (基準年度)	2022年度		
		実績(数値)	目標(削減%)	実績(削減%)
電力(kwh)	16.06	24.67	0%	54%
灯油(L)	0.28	0.20	0%	-29%
LPG(kg)	0.007	0.005	0%	-29%
ガソリン(L)	0.06	0.05	0%	-17%
軽油(L)	1.61	1.86	0%	16%

※新破碎機システムの年間通しての稼働によるエネルギー消費の検証となる年度でした。

本年度の実績をベースに環境経営を推進していきます。

①新破碎機(メイン)2インチ高付加商品生産180kwh(400V)電力使用

従来の切断機使用時の約2倍の電力消費量となる

②ビード採取機フル稼働し1,355tのタイヤ(平均41kg)ビードワイヤー引抜、梱包・出荷

③製品化工程数の増加(2次加工)

大型タイヤのビード採取品⇒32分割⇒ヤードストック⇒ホッパー投入(重機)⇒細破碎機(2インチ化)

大型タイヤは従来の4倍の工程数が発生する

④10tタンク導入(製品輸送、ビードワイヤー輸送・追加)除雪の排雪

⑤新電力⇒北海道電力へ移行、CO₂排出係数0.47⇒0.55(117%)増加となる

2. 廃棄物排出量

基準年対比524kg(+126kg)増加し未達となる。資源ごみは飲料メーカーで回収することにする。

5Sをより一層加速推進して行く、細破碎機導入に際し不要物の整理等も実施したため増加している

工場・事務所のの整理・整頓・清掃を推進・分別は壁・ごみ箱にも掲出し周知徹底する。

3. 水使用量(下水道排水量)

基準年対比510m³(+184m³)増加し未達。細破碎機の常時散水を考慮すると予想より少ない

適切な散水量を検討して行く

4. 再資源化量

製紙会社向け高質製品(2インチ)を生産し4.983tのほぼ全数が高品質製品であった

需要家の要望に合わせた結果、基準年対比125%の切断細破碎を生産

ビード採取後のワイヤー品を金属くずの再資源化量は基準年対比411%の増加であった。

5. コピー用紙使用量

基準年対比△19%と達成する。請求書控えのデーターベース化他ペーパーレス化推進する

6. 教育・訓練

月次:CO₂排出・エネルギー使用量・平均値対比原単位及び生産計画(成行・次月実施事項)、連絡事項等

本年度は月次開催し年12回勉強会を実施した。

(6月25日現在、520日達成推進中)

7. その他

①HPの定期インフォメーション掲載

②敷地及び周辺の草刈り実施(2回)

③中沼町内会「環境美化事業」、モエレまちづくり委員会「花と緑のまちづくり」に協賛・寄付金拠出

④生物多様性さっぽろ応援宣言(札幌HP掲載)・・・2023年さっぽろいきもの探し参加(身近な生き物を探そう)

■2023年度の主な取組

1. 基本姿勢

廃タイヤ搬入量、自社収集の計画達成すること、中間処理、販売量は事業計画に沿って推進生産に＝破碎機導入により製品として需要家に出荷できるが、TB/LT大は前処理が必須となる「前処理＝ビード抜後 ➡ 切断機(32分割) ➡ スtockヤード(仕掛品) ➡ 細破碎機(製品化)」作業・車両運転等は「安全を最優先」し、無理・無駄をせず、環境負荷低減を強く意識し行動する。

主な活動計画は、次の通り。

イ. 電力(9割工場・1割事務所)

①生産計画(日・月別)策定し、計画的かつ効率的な工場運営の実施すること

細破碎機は消費電力が現在の3倍近く消費、電力消費を検証しながら稼働のこと。

※廃タイヤ搬入計画4,300(基準対比103%)、チップ販売計画3,810t(基準対比103%)

処理量4,048t(基準対比103%)の計画とした。

②日常の保守・点検作業を実施し、故障予防と部品交換を実施し電力ロスを防ぐ

細破碎機は高速可動部が多い、新ベルトコンベアについても隔日グリスアップメンテ実施

③エアコンの適正温度調整実施し、クールビズ・ウォームビズを実施・継続する

ロ. 燃料(軽油8割は重機にて使用する)

①受入・生産・出荷に係る作業配分を調整し、無理・無駄がないようにする

②構内ショベル・バックホー・リフト・スーパーは老朽化が進んでいる為、メンテナンスを入念に実施しエコ安全運転を実施継続する。10tダンプを製品輸送のため車両レンタルする。

③冬季繁忙期(10～11月)在庫増分を凍結期を意識し、在庫位置・方法を工夫しすること
1～3月期の氷割り作業に支障が少ないよう水抜等を行う⇒重機稼働ロス削減を目指す

④灯油暖房(ジェットヒーター使用が9割)

冬期間は工場シャッターをできるだけ締切、冷気の侵入を極力減らすこと。

細破碎機は常時散水が必要です。冬季間稼働時の凍結防止でジェットヒーターを使用します。

ハ. 水使用量(下水道排水量)⇒9割は細破碎機常時散水用

①細破碎機は2軸破碎部に常時散水します。適切な量を散水すること

②泥付き廃タイヤの持ち込み禁止の徹底の継続

③エアー及びスーパー(車両)による構内清掃の励行

ニ. 再資源化の促進

製紙会社のカーボンニュートラル(化石燃料削減)の一助として廃タイヤ代替燃料の供給量UP
細破碎チップの製造拡大と製品出荷の拡大の実施

①製紙会社契約量の確保・納入推進(一次加工品⇒2インチ完成品)

②同業業者への一次加工品の納入促進

③廃タイヤ選別精度の向上(リユース品拡大)

④納入先の新規開拓、代替燃料利用先・ゴム加工品原料等)推進

ホ. その他

①5S運動・2000日無災害運動継続

②月次研修会(EQ21推進成行、計画、法規、安全衛生)を継続実施

③火災予防・防火訓練は年1回実施(9～10月)

④中沼連合町内会「環境美化事業」モエレまちづくり委員会「花と緑のまちづくり」協賛

⑤敷地・周辺の草刈り実施(年2回)

⑥生物多様性さっぽろ応援宣言企業登録(さっぽろ生き物さがし2022参加)

8. 環境関連法規等の遵守状況の確認、評価の結果、違反・訴訟等の有無

環境関連法規等の改廃等最新情報は、次の通りチェックしている。

1. 廃棄物処理法関係は、毎週環境省ホームページ「報道発表一覧」でチェックし、毎年5月に(一財)日本環境衛生センター「廃棄物」処理法法令集」で改定のチェックをしている。
2. 廃棄物処理法以外の法規、北海道、札幌市条例等は、毎年5月に夫々のホームページで改定のチェックを行っている。
- 2024年5月31日確認

環境関連法規等の名称		主な該当項目	確認状況
	規定対象		
廃棄物処理法	産廃の収集運搬業(道庁)	産廃収集運搬業の許可、更新・変更許可、届出/事業の範囲等	遵守確認
	一廃の収集運搬業(札幌市)	法第7条第1項但し書、施行規則第2条第8号により許可不要	遵守確認
	産廃の中間処分業(札幌市)	産廃処分(破砕)業の許可、更新・変更許可、届出/事業の範囲等	遵守確認
	一廃の中間処分業(札幌市)	法第7条第6項但し書、施行規則第2条の3第6号により許可不要	遵守確認
	産廃・一廃処理施設	産廃処理施設設置許可・変更許可、一廃処理施設設置届出/処理能力・技術管理者の設置等	遵守確認
	産廃・一廃処理基準	収集運搬、処分、保管基準/飛散・流失、車両の表示・書類携帯、保管施設の表示義務、保管量・高さ上限等	遵守確認
	産廃委託基準・マニフェスト	委託契約の締結・内容、再委託の禁止、マニフェスト無しの受託禁止、マニフェストの交付、虚偽記載禁止、回付、送付、報告義務	遵守確認
	その他当社に関する規定	処理行程の把握、マニフェスト交付確認、保管、報告義務、産廃の自社運搬時等排出者の義務	遵守確認
労働基準法		労働基準法9条改善基準告示(4輪以上自動車運転従事者)改正	24年4月遵守徹底
道路運送車両法		車両の排ガス規制(オフロード法は、適用外車)、騒音の防止	車検で確認
消防条例(指定数量)		灯油保管施設の材質・保管場所、基準、届出/指定可燃物(廃タイヤ・チップ)の届け出、表示、量及び保管場所の基準	遵守確認
大気汚染防止法		車両排ガスの基準	車検で確認
資源有効利用促進法		パソコン等電子機器の廃棄で業者回収に協力	発生時対応
プラスチック資源循環促進法		プラスチック廃棄物の抑制・分別収集・自主回収・再資源化	周知徹底
容器包装リサイクル法		分別、指定場所への排出(ビン、カン、ペットボトル)	適正処理
家電リサイクル法(含、小型)		テレビ、冷蔵庫、洗濯機、携帯電話、デジタルカメラ等の廃棄	発生時対応
自動車リサイクル法		自動車リサイクル促進センタールート回収確認	発生時対応
北海道公害防止条例		破砕・切断機等設備能力の変更申請時許可適用(騒音、振動規制法、札幌市産業廃棄物処理施設設置等ガイドライン)	変更時対応
札幌市生活環境の確保に関する条例		アイドリングストップ	周知徹底
札幌市廃棄物の減量及び処理に関する条例		産業廃棄物・特別管理産業廃棄物の処分実績報告(中間処分・収集運搬)	年次報告
労働安全衛生法		労働災害防止、フォークリフト、ショベルローダ運転資格の確認	免許証で確認
道路交通法		無免許運転の禁止。安全運転管理者の設置、交通安全教育の実施	遵守確認
フロン排出抑制法		フロン回収の確認…エアコンガス補充は燃課と知り	発生時対応

環境関連法規等への違反、訴訟等はなかった。また、会社設立以来23年間、関係当局からの違反の指摘もない。
「排出事業者へのアナウンス事項」も含め、毎月の定例研修会で関係法律の内容と遵法精神を周知・徹底した。
2024年4月施行ドライバー改善基準告知、遠隔地の搬入業者への影響度を説明。又、当社に対する環境に関する苦情等はなかった。
環境に関するものを含め、対外窓口を設置し、対応している(対応は、環境事務局)。また、HPも開設している。

9. 代表者による全体評価と見直しの結果

1. CO2排出量、エネルギー投入量について
- 細破砕機導入後(90Kwh×2k機)通年運用を実施することができました。その結果、電気・軽油・水等の使用量増加
又、製品輸送用ダンプ(10t)及びバックフォー導入、細破砕機は常時散水で冬季凍結防止の暖房(灯油・電気)を使用
2インチ生産への過程で2次加工を実施しCO2排出量、エネルギー投入量が大幅増加しました。
- 当社は需要家のカーボンニュートラルへ向けた取組に協力することで、全体を通した化石燃料削減して行きます
当社のCO2排出量、化石燃料使用量は増加していますが、それ以上に需要家でのCO2削減、化石燃料削減されています。
発生場所(当社)＜削減場所(需要家)が変わったのです。我々は、環境経営を継続し新しい環境で削減目指します。
2. その他の環境目標
- ①一般廃棄物は計画対比147%+188Kgオーバーする。細破砕機やコンベア等のメンテナンス用品廃棄も含む
今後も、5Sを推進し長期未使用品及び不要物の整理を推進、分別による廃棄物の削減を目指す。
3. 指示事項
- ①2000日無災害運動は6月20日517日で継続中。改めて機械修理等は機械を「完全停止」し行うことを周知徹底する。
②廃タイヤTB(大小)/LT大のビード採取作業の推進⇒特にLT大は重量が軽く、TBと同重量生産には1.7倍平均時間がかかる
③ビード採取品の後32分割後⇒2インチ化2次加工が必要、カット品仕入れの2次加工リードタイムを勘案して作業実施
④販売(利用)策の問口拡大、情報収集し積極的にアプローチすること